



四郷小 学校だより

第 12 号
令和 4 年 9 月 5 日

全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日(火)に全国の小中学校で実施されました。この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立つ目的で行われているものです。本校でも6年生が、国語、算数、理科の3教科と、児童質問紙(生活習慣や学習環境に関するアンケート)



による調査を受けました。その調査結果が7月末に届きました。調査を実施した6年生には、2学期に入ってそれぞれの結果個票を返却したところです。

調査から測定できるのは、子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果をもとに学校と家庭が協力して、教育活動や児童の学習状況の改善につなぐことが大切です。そこで、今回の結果から見えてきた本校の特徴についてまとめてみました。

1 学力調査からみられる四郷小学校の特徴(強みと弱み)

本年度は算数が全国平均を上回りましたが、国語、理科は全国平均をわずかながら下回る結果となりました(全国平均正答率と比べて+1.8~-2.6%)。また、3教科ともに、記述式の問題で無回答率が全国平均よりも高い傾向がみられました。

※ 調査の問題・解答は文部科学省ホームページからご覧になれます。

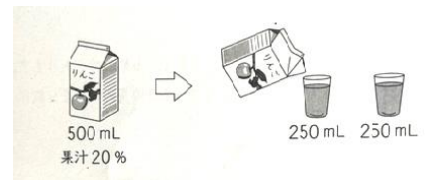
【国語】※ ○…強み(正答率が高いもの) ●…弱み(正答率が低いもの)

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」など知識・技能については、全国平均正答率とほぼ同じでした。
- 「話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかみる問題」(設問1一: 正答率82.2%)はよくできていました。また、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかみる問題」(設問3四: 正答率79.5%)も全国平均正答率を上回りよくできていました。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では全国平均正答率を下回っていました。
- 「記述式」の問題の無回答率が全国平均より高い割合でした(4.1%~19.2%)。
- 「立場や意図を明確にしながら自分の考えをまとめる問題」(設問1四: 正答率35.6%)や「感想や意見をもとに文章の良いところを書く問題」(設問3二: 正答率28.8%)に課題がありました。

【算数】

- 「数と計算」「図形」「データの活用」の三領域で、全国平均正答率を上回っていました。
- 「0のある整数の乗法の計算(1050×4)」(設問1(1): 正答率93.2%)や「百分率で表された割合を分数で表す問題」(設問2(1): 正答率84.9%)「表の意味を理解し当てはまる数を求める問題」(設問3(1): 正答率82.2%)はよくできていました。

- 「変化と関係」の領域は、全国平均正答率を下回っていました。
- 「右図に示した場面のように、数量が変わっても含まれる果汁の割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題」(設問2(3): 正答率16.4%)に課題がありました。



- 「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて未知の数量の求め方と答えを記述する問題」(設問2(4): 正答率42.5%)に課題がありました。

【理科】

- 「粒子」を柱とする領域で、全国平均正答率を上回っていました。
- 「メスシリンダーという器具の名前を書く問題」(設問2(1): 正答率94.5%)や「メスシリンダーの正しい扱い方の問題」(設問2(2): 正答率80.8%)「昆虫の体のつくりを理解しているかどうかみる問題」(設問1(3): 正答率80.8%)など知識・技能に関する問題はよくできていました。
- 「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域は、全国平均正答率を下回っていました。
- 「日光は直進することを実験場面と関連付けて理解しているかどうかをみる問題」(設問3(1): 正答率13.7%)に課題がありました。
- 「問題に対するまとめについて、実験結果を引用してその根拠を記述する問題」(設問3(4): 正答率32.9%)に課題がありました。

2 児童質問紙からみられる特徴 (学習・生活の状況に関して)

何よりもよいことは「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている」子の割合が高く基本的な生活習慣が整っているという点です。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」という子の割合もかなり高いことがわかりました。学習では「タブレットなどICT機器を授業で使用する頻度」が高いことや「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と感じている子が多いです。

一方、「学校以外での1日当たりの学習時間」は平日、休日ともに全国平均に比べ少ないということや「授業以外での1日当たりの読書時間」も全国平均に比べ少ないという実態がみられました。また、「平日、1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(PC、スマホゲームを含む)をしますか」で2時間以上と答えた子が4割強(そのうち4時間以上と答えた子14%)、「平日、1日当たりどれくらいの時間SNSや動画視聴(学習・ゲームを除く)をしますか」で2時間以上と答えた子が約3割(そのうち4時間以上と答えた子12%)いることも明らかにしました。

3 学校質問紙からみた学校の特徴 (県や全国との比較)

本校では、「一人一人のよい点や可能性を見つけて評価している」「算数の授業における少人数による指導が行われている」ことが県や全国に比べよく行われている一方で、一人一人に配備されたタブレットで「児童がやり取りをする」「学校外の施設にいる人々とやり取りする」「家庭でのオンライン学習」に活用する頻度が全国に比べ低いことがわかりました。

また、「コミュニティ・スクールの仕組みを生かして保護者や地域のひととの協働による活動を行っていること」が県や全国に比べ、よく行われていることがわかりました。

授業改善に取り組みます。

学校では全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、全学年で学力向上のための授業改善に取り組んでいきます。特に、正答率が低く課題のある学習内容については、つまづきを克服するために、授業や朝の学習等で系統的・継続的な指導を行います。タブレット等ICTの活用も進めます。また、授業の中で、自分の考えや方法・筋道などについて、文章で表現する機会を多くとり、目的や意図に応じて適切に書く指導を充実させます。算数で公式やきまり、計算の仕方を学習するとき、そのわけや意味まで理解できるよう指導を工夫します。

生活習慣の定着・家庭学習へのご協力をよろしくお願いします。

ご家庭での家庭学習等のご支援ありがとうございます。全校で家庭学習について統一した取り組みを続けていることもあり、漢字や計算などの基礎的な学力は定着しつつあります。しかし、平日のゲームやスマホに費やす時間の長さからも、自主学習(プラス1)や読書などの自主的な家庭学習に取り組む時間や睡眠時間が短くなっていることがうかがわれます。今後も、子どもたちの主体的な学びを育むため、引き続き、生活習慣の定着・家庭学習(宿題+自主学習)へのご協力をどうぞよろしくお願いします。